

# 十月例会 御案内

〔令和元年・通算第七〇〇回〕

## 公益財団法人 協和協会

### ○ 御案内

▽月例講話会・第七〇〇回・記念講話。

また昭和五十四年一月から開始して、丁度四十年になります。十月二十八日(月)十一時半入館可、正午～午後二時半 参議院議員会館・地下一階一〇八会議室

講師 古川隆久先生・歴史学者(日本近代史)・日本大学文学部教授。

本年八月中旬、NHKニュースにて、被占領下の日本で、昭和天皇に仕えた田島道治初代宮内庁長官が約五カ年にわたり、昭和天皇からうかがった六〇〇回に及ぶ対話を記した『拝謁記』と題する十八冊の手帳が、田島元宮内庁長官の御遺族からNHKに寄贈されたとのニュースに接しました。当財団の創立会長・岸信介元総理は、晩年、昭和天皇からのお招きで皇居へ参上しておりました。そして、昭和天皇は、昭和六十二年八月七日夕、岸信介元総理の訃報に接するや、その場で三首の御製をお詠みになっておられます。今回はこの月例講話会の七〇〇回記念として、前記『拝謁記』を通読された古川隆久先生から、その内容の要旨を御解説いただきます。奮っての御参加を!

(清原記)

□ 当日会費(昼食代含む) 会員は三千円、外部からの参加者は五千円

公益財団法人 協和協会 <http://www.kyowakyokai.or.jp>

十月二十八日(月)の月例会に

電話 03-3581-1192

FAX 03-3507-8587

出席 欠席 (いずれかに〇印を)

御芳名

当日連絡先 080-8836-6203 重田

080-9292-2620 高津

(メール不可・通話のみ)

貴方様の FAX  
メール

十月二十四日(木)までに出席の御連絡賜りたく。

### ○ 御報告

近年の日本は、六月から猛暑が続いて梅雨時にスコールのような大雨になったり、連続集中豪雨でこれまでに災害がなかった河川が氾濫し洪水となったり、風速五十節を越す強風により鉄塔が倒れ長い停電や家屋被害が出るなど、庶民感覚でも異常気象を痛感し、人類によるCO2対策が急がれます。これに対して、外国の大統領などは、それは人類によるものでなく、宇宙・太陽系による変動のためとする意見も出て、どちらが原因なのか、また、両者が関わっているとするれば、その割合はどのような比率になるのか? この点が分からないと、対策を立てようもありません。

そこで、去る九月二十六日の月例講話会は、永年気象行政に携わられ、生き字引といわれている橋田俊彦気象庁前長官にお願ひし、御講話をいただきました。

橋田俊彦先生は、当財団の要請に応じ、『人類の活動は、気候変動(地球温暖化)や異常気象に影響を与えているか?』と題する四十頁を越す資料を創って下さり、懇切な御解説を下さいました。その内容は、広範にわたり全部を御紹介できませんが、その要旨として、橋田先生は、まず地球上で工業化が始まった一八八〇年から二〇一二年の間で、気温が〇・八五度上昇している。数々の統計資料を分析すると、太陽周期による自然原因は最大で約〇・一度であり、火山噴火やエルニニョ現象など自然的な要素もあるが、その主原因は、大気中の二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素の増加という人為的な要素による、と考えざるをえない。

また、異常気象とは、『ある地域、ある時期において、三〇年に一回以下の頻度で発生する現象』と定義されている。世界の平均気温の予測統計では、このまま、温室効果ガスの排出が続けば、気温はますます高くなって行くであろうし、年平均降水量も増加する可能性が高い。日本だけ見ても、平均気温は約四・五度上昇、猛暑日は年間二〇日、大雨発生も二倍以上になるだろう、とされ、これに対する対策についても種々言及され、国は早急に対策を立てる必要があると痛感いたしました。

(清原記)

### ▽「公益財団法人 協和協会」とは

昭和四十九年、岸信介元総理によって創立された財団。活動趣旨は、『政党・派閥・利害・打算の次元を超えて、真に国家的課題を研究調査し、特に重要課題は、政府宛要請書を作って、時の政府へ提出することにある。昭和五十四年から本格活動に入り、月例講話会その他に八つの部会と、五、六の委員会があり、これまでに百三十七本の要請書を時の政府に提出している。

第二代会長は福田赳夫元総理、第三代会長は櫻内義雄元衆議院議長、第四代会長は塩川正十郎元財務大臣、第五代会長代行として、江口一雄元衆議院議員、現在、第六代は代表理事兼会長代行として、岸信夫衆議院議員・前衆議院安全保障委員長、元外務副大臣が就任している。

▽事務局電話(03)3581-1192

代表理事兼専務理事・清原淳平、総務 重田、高津